



# 洋上アルプス

No.331 2022年10月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1  
TEL 0997-42-0331 FAX 0997-42-0333



## 高層湿原保全対策検討会の開催（9月14～15日）

屋久島町内において「令和4年度屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会」が開催されました。

この検討会は高層湿原である花之江河及び小花之江河の状態が急激に変化しつつあることから、湿原の現状及び湿原が形成されたプロセスを把握した上で実効性の高い保全対策等の検討を行うこととして、平成30年度に設置されました。

検討会には森林生態系モニタリング調査委託事業体の（一社）日本森林技術協会が事務局となり、学識経験者や環境省、林野庁、鹿児島県、屋久島の行政機関のほかオブザーバーとして地元関係者などが出席しました。



花之江河の水の流れについて説明する下川委員

初日の現地調査では、現状の花之江河及び小花之江河の水流について確認しました。当日は雨のため、水の流れがよく分かりました。

2日目は、屋久島環境文化村センター（一部オンライン会議）において、初日の現地調査を踏まえた検討会が開催されました。

委員からは花之江河におけるシカ柵や木道による水流への影響などについて意見が出されました。

今回の検討結果については、12月26日に開催される高層湿原検討会を経て、来年2月に開催される第2回屋久島世界自然遺産地域科学委員会に報告される予定です。



初日の現地調査を踏まえた検討会の様子

## 令和3年度「年報」を発行・ホームページに公開しました

当保全センターの概要や業務内容、各種調査や関係行事などを掲載した令和3年度「年報」を発行しました。

例年関係機関や研究者等に紙媒体にて配布しておりましたが、今回よりホームページでのPDFデー

タ公開のみとさせていただきました。

当保全センターホームページでは平成7年度分から最新号までの全てのバックナンバーを公開しておりますのでご覧ください。



[https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/alps/annual\\_report.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/alps/annual_report.html)

## 令和4年度インターンシップの受け入れ（9月7日～9日）

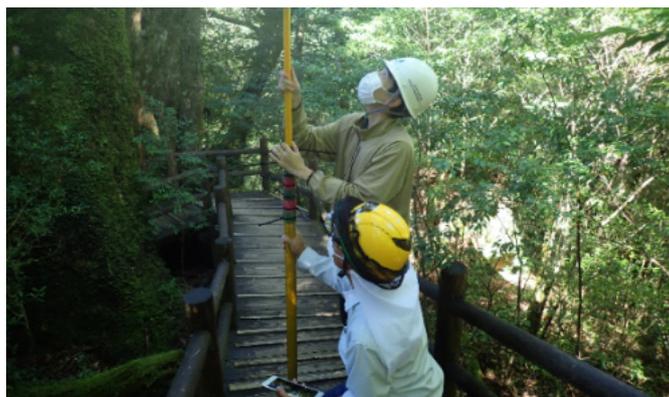
宮崎大学農学部・森林緑地環境科学科3年の学生1名が、当保全センターにおいて農林水産省就業体験実習を行いました。当初1週間の予定のところ台風12号の影響で来島が遅れ、3日間に短縮されましたが、当保全センター及び屋久島森林管理署の業務を体験しました。

初日は、屋久杉巨樹・著名木調査業務として、紀元杉において測棹にGOプロカメラを取り付け着生木の調査と周辺の植生調査を行いました。測棹の上げ下げを場所を変え何度も繰り返し、調査の大変さを体で感じているようでした。

2日目は、治山事業実行箇所（令和元年度災害復旧）と製品生産事業箇所の現場を視察しました。治山事業箇所では、現地で当時の災害発生状況や工事概況について江口総括治山技術官から説明があり、実習生にとって初めて見て聞くことばかりであったことから、沢山の質問が出され関心の高さを伺い知ることが出来ました。

また、製品生産事業箇所では、実習生がこれまでゾーニングを数回大学の実習で行った経験があること及び作業システムも理解していたことからスムーズに説明が進みました。

3日目は、レクリエーションの森（白谷雲水峡）



測棹を上げてカメラの位置を調整する実習生

において現場のパトロールを行ったほか、併せて植生や白谷雲水峡の特色等の説明を行いました。

白谷雲水峡内にある巨大な屋久杉の数々や、橋の上から見る立派な滝、白くて丸い花崗岩など、屋久島ならではの景色に興味津々な様子でした。

また、当保全センターに帰所後も、携帯トイレの使用方法や内務作業に関心を持ち、積極的に学びを深めていました。

実習生からは「これまでは考えてこなかったことなどを考えるいい機会となり、林業にも関心が広がった」との感想を頂きました。体験実習が今後活かされることを期待します。

## 琉球大学と森林調査を実施（9月12日）

宮崎大学及び琉球大学による植生等調査が、天文の森試験地（ヤクスギランド）と白谷試験地（白谷雲水峡）の2箇所で行われました。

当保全センターからは「九州森林管理局と九州・沖縄5大学との連携と協力に関する協定」に基づ



調査後、白谷雲水峡入口にて

き、所長を含む3名が9月12日、白谷試験地での調査に参加しました。

琉球大学高嶋助教の指導のもと、プロット内調査木の古くなったナンバータグの交換や、新たに調査対象木となった樹木へのナンバータグの取り付け作業を琉球大学の学生3名と一緒に実施しました。

当日はあいにくの雨で足下が滑ったり、前年度調査をもとに用意したナンバータグと一致する調査木を確認するのに手間取ったりと大変苦勞しましたが、4プロット目で雨が激しくなったことから下山し調査を終えました。

今後においても、協定に基づき人材育成や技術開発の面で連携・協力し屋久島の森林・林業の発展に努めて参りたいと考えています。

# 小さな博物館が取り組んだ「屋久杉巨樹著名木調査」(その2)

## —受け継がれる命—

屋久島町 屋久杉自然館 館長 松本 薫

台風一過の9月23日、今回の再調査開始を受けて、何となく気になっていた白谷大杉としゃらの大杉のその後を見ておきたいと思い、久しぶりに白谷雲水峡を訪ねました。

どちらも一般のルートから外れ、最近では訪ねる人も少なくなった楠川歩道沿いに立っています。いえ立っていました、と言うべきでしょうか。白谷大杉は昭和63年頃にはすでに折れていたようで、白谷雲水峡のパンフレットからも消えています。

白谷大杉と平成5年調査の2年後に折れたしゃらの大杉は、数十年を経てどちらも当時の写真では所在確認ができないほどに一変していました。

巨木が倒れたことで大きなギャップができ、新しい命が次々と誕生し、成長しています。しゃらの大杉に至っては周辺にサクラツツジやハイノキが茂り、幹にもミヤマシキミやアセビなどが多数着生し、以前からとりついていたヤマグルマは更に大きく成長していました。また、折れた部分は数本の大きなヤクシマオナガカエデに覆いつくされ、スギをはじめ権利を持つ多くの着生樹を押し

しゃらの大杉



平成5年  
屋久杉巨樹著名木調査



平成10年  
台風により7m程で折れた



令和4年9月  
新しい森の誕生

のけるその勢力の強さにも驚かされました。

平成5年の調査からわずか30年足らずの間に終焉を迎えた屋久杉が何本も確認されています。平成12年には森林軌道沿いの「仁王杉」が根こそぎ倒れ、また記憶に新しいところでは大株歩道沿いに立っていた「翁杉」の倒木。これはかなり衝撃的でした。樹木医による調査の結果、幹内部の90%ほどが腐朽により空洞化しており、上部の重みに耐えきれなくなったようです。

関係機関や有識者による「翁杉の幹折処理検討有識者等会議」が開かれ、その取扱いについて検討されましたが、結果的には現地に残し、屋久島の森の再生を現地で学べる自然環境教育の場として活用されることになりました。

1000年単位で語られる屋久杉の森ですがここ30年足らずの出来事です。ことのほか世代交代が活発で活性的な屋久島の森林生態を垣間見ることができました。

翁杉



平成5年  
屋久杉巨樹著名木調査



平成22年9月  
倒木直後。大きなギャップができている



## 屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

〔標高900mプロット（龍神杉歩道）〕 確認種数：69種（平成27年度調査：51種）

◆調査結果の概要 沢中流の右岸の凹型斜面にあり、湿度が高い。スギ林内にヤブニッケイ、マテバシイ、ユズリハ等が出現する針広混交林。立木密度が高く、台風や強風による折損が見られ、全体的に活力の低下が見られる。亜高木～草本層の各階層でヤクシカの不適好植物が優占する。スダジイ、ハリギリは高木層の他には見当たらず、また亜高木層に唯一あったカナクギノキが消失し、いずれも更新が危惧される。タンナサワフタギにシカ食痕、ナナカマドとマテバシイに古い食痕が見られた。

### ◆優占種の変化

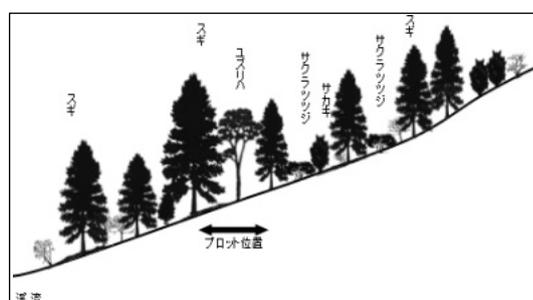
階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層（7.0m以上）	スギ	スギ	スギ	スギ
亜高木層（4.0m～7.0m）	ユズリハ	シキミ	ユズリハ	ハイノキ
低木層（1.2m～4.0m）	サクラツツジ	シキミ	サカキ	サカキ
草本層（1.2m未満）	ハイノキ	シキミ	ハイノキ	ハイノキ



マテバシイに見られた古い食痕  
（再萌芽が見られる、○印）



ナナカマドに見られた古い食痕  
（再萌芽が見られる、○印）



標高900mプロットの群落横断面図

※群落横断面図の樹形図については「財団法人サンワみどり基金（1981）樹の本」から引用・改変

## 木に逢う日々（第9回）「残すべき自然の遺産」

当保全センター GSS 野々山 富雄

来年、屋久島は世界遺産認定30周年を迎えます。

コロナ禍により、減少していたお客様もポチポチではありますが、持ち直してきた感もあります。

職業としてのガイドですから、お客様が来てこそ成り立つ稼業では、あります。

しかし、自分も好きで屋久島に来て住み着いたわけですから、あまりにも来島者が増え過ぎるのも、どうかな、とは思っています。

人が増えれば、どう注意していてもゴミが増えたり、トイレ問題など自然へのダメージも見過ごせなくなってきます。

この大自然があるからこそ、多くの方が屋久島に訪れていただけるわけです。それが損なわれてしまったら、誰も来てはくれません。

この島は我々だけのものではない、世界自然遺産なのですから、この美しさのまま、次の世代に残していかなければなりません。

そのためには、この自然を守り、その素晴らしさを伝えていくガイド、また林野庁の仕事は、増々、重要になると考えています。

日々、木に逢い、それを楽しみながら誇りを持って、この島で暮らしていきたいと、願っています。

私の連載は今回で終了です。拙い文章ではありますが、お読みいただきありがとうございました。

いつか屋久島の森で見かけたら、気軽にお声かけいただけたら、幸いです。



屋久島を次の世代に